

## 火山と共に生きていく鹿児島

## ■ 桜島

始良大噴火により直径20kmに及ぶ始良カルデラが25,000年前に形成された。この大噴火により地下のマグマが大量に噴出し火砕流となり、南九州のシラス台地となった。始良カルデラは現在鹿児島湾（錦江湾）の北部に位置する。桜島はその南の縁に誕生した。

桜島これまでに大噴火を繰り返してきた。文明大噴火では、北岳の中腹から溶岩が流出し沖小島と烏島が形成された。安永大噴火は、桜島南部から噴火が始まり、北岳の山腹から溶岩の流出があった。海底噴火では津波が発生。一連の海底火山活動で燃島、硫黄島、猪ノ子島など火山島が形成され、今でも燃島（現、新島）は残っている。大正大噴火では、大量の溶岩が流出しそれまで島であった桜島が、対岸の大隈半島と陸続きになった。その規模は、上部2m程を残して火山灰に埋もれた鳥居などが噴火の大きさを物語っている。昭和大噴火でも大量の溶岩を噴出した。流出した溶岩は今も荒々しい姿を見せている。

桜島は、2年前から噴火活動が活発化し噴火回数も増大している。噴煙を上げるその姿は凄まじく、また、降り積もった火山灰が土石流となって押し寄せてくる。火山灰による健康への影響や、車のスリップなど生活への影響もある。

爆発の無いときの姿は、雄大に海に浮かぶ島である。夕焼けに染まり刻一刻と山肌の色を変え、そして日が落ち暗くなるとシルエットが美しい。冬、寒波が訪れと稀に、北風の当たる頂に冠雪し、穏やかな姿を見せてくれる。鹿児島市内からフェリーに乗って約15分で、錦江湾を横断して桜島に上陸できる。すぐに、大正大噴火の時に流れ出した溶岩を見られる。視線はいつも桜島に向けられ、自然の驚異を毎日見せつけられながらも、街づくりの核となっている。

これからも火山の近くで、自然に敬意を払いながら、この環境を理解し住み続けていく。



## ■ 窓から見える桜島

今日3回目の爆発をして灰色の噴煙を上げている。噴煙は北からの風に乗って大隈半島にある垂水市の方向に流れながら形を変えていく。晴れた日には青い空に灰色の噴煙が入道雲のようだ。曇りの日の噴煙は、今にも雨が降り出しそうな雨雲のようだ。

東からの風が吹く時に爆発をすると、噴煙が錦江湾を越えて6万人の住む鹿児島市に流れて来て火山灰を降らせる。風向きに依って薩摩半島、大隈半島へと噴煙は向かい火山灰を運んでいく。鹿児島市から見える桜島は南北に広がる雄大な姿を誇っている。錦江湾を1周しながら桜島を眺めると、その姿は大きく変わって見える。

爆発する時、火口を通して巨大な塊が地下から噴上げてくる。錦江湾の地下に潜む巨大なマグマの塊が、地上へ向かって突き上げてくる。地球のエネルギーを感じる瞬間だ。時には、上空3000mにも達する噴煙を上げてそのエネルギーを誇示する。様々な姿を見せてくれる桜島だ。

## ■ 鹿児島の火山

鹿児島県内には、霧島山、米丸・住吉池、若尊、桜島、池田・山川、開聞岳、薩摩硫黄島、口永良部島、口之島、中之島、諏訪之瀬島、以上11の活火山がある。薩摩硫黄島、口永良部島、口之島、中之島、諏訪之瀬島は東シナ海に浮かぶ火山島だ。これらの島の中で一番大きいのが口永良部島で屋久島の西の海上に位置する。薩摩硫黄島は鬼界カルデラに生成した火山島。口之島、中之島、諏訪之瀬島はトカラ列島に位置している。それぞれの島には島民がおり生活を営んでいる有人島である。

米丸・住吉池は錦江湾の北側に位置する始良市にあり現在火山活動は無い。米丸マール内には水田があり稲作が行われており、米丸温泉もある。若尊（ワカミコ）は始良カルデラの北東部に位置し錦江湾にある海底カルデラだ。海底火山で現在でも激しい噴気活動が続く熱水噴出現象が発見されている。池田・山川は薩摩半島の南東部に位置し、池田湖と山川マールで形成されている。近くには温泉が多く湧き、指宿温泉が有名である。開聞岳は薩摩半島の東南部に位置し、東側には池田・山川がある。東シナ海に迫り出し、美しい円錐形をしている。

霧島山は加久藤カルデラの南端に位置する火山群だ。御鉢と新燃岳で噴火を繰り返し、今年1月に新燃岳で大規模な爆発があり、宮崎県、鹿児島県に大量の火山灰を降らせた。今、最も活動が盛んな火山が霧島山の新燃岳と桜島だ。桜島は錦江湾に浮かぶ島であったが大正時代の噴火で大隈半島と繋がった。始良カルデラの南端部に生じた火山で、「文明」「安永」「大正」「昭和」の大噴火は多量の溶岩を流出した。北岳、南岳に火口があり昭和火口は毎日爆発を繰り返し火山灰を周辺の町に降らせている。

鹿児島には多くの火山があり、その恵みを受け、また被害も被っているが、その環境の中で生活を営んでいる。

鹿児島島の情報はこちら

<http://www.jia-9.org/kagoshima/>

一万人の世界建築家展

<http://www.10000architects.com/?jp>

2000m上空まで吹き上がる噴煙



冠雪する桜島



九州支部 鹿児島会 (会員:25名)

石川幸男	岩田幸千	奥平容三	小原正信	加塩博之
上鶴眞一	川島康文	下山道男	三反田藤男	末吉重栄
武田敏郎	鐘周作	東條正博	永園岩夫	中原祐二
中俣知大				
中山高士				
西久志				
肥後潮一郎				
藤崎松一郎				
古川稔				
溝口駿				
養田満康				
吉永詠子				
領家克朗				



爆発の瞬間



風に流されて麓に降り注ぐ火山灰



北からの風に乗って垂水市方向へ向かう



垂水市方向から見る桜島



展望台からの桜島



大正噴火に依って流れ出した溶岩



垂水市方向から見た夕焼けに染まる桜島



霧島市方向から見た桜島

